

歴史に学ぶ



Historia

2022.9.15

第6号



おいでませ
私の館へ！

特集1 「築山跡史跡公園」開園 —大内教弘と築山—

特集2 山口と鉄道 —鉄道開業150周年—

特集3 山口ヒストリア講演会6 「～陶晴賢と厳島の戦い～」 講演要旨

コラム 大内氏重臣・陶晴賢生誕500年記念
兼重暗香生誕150年

築山跡史跡公園（上堅小路）
※ 10月10日開園予定

1 「築山跡史跡公園」開園 — 大内教弘と築山 —

つぎやまあと

令和4年（二〇二二）10月10日、山口市が整備を進めてきた国指定史跡・築山跡（山口市上堅小路）の東南部分に「築山跡史跡公園」がオープンします。築山（館）は、大内氏の本拠である大内氏館（現在の龍福寺とその周辺）の北側にあった施設です。室町時代中頃の当主・大内教弘（一四二〇～一四六五）にゆかりがあります。



築山大明神となった大内教弘

（『大内氏がわかる本 興亡編』より イラスト・taeco氏）

◎大内教弘の生涯

大内教弘は大内盛見の息子で、※盛見の名前の読みには「もりはる」。「もりあきら」など諸説あります。

嘉吉元年（一四四二）に従兄の大内持世から家督を相続します。引き継いだ周防・長門・豊前（現在

の福岡県東部と大分県北部）の三か国に加えて、正式に筑前国（現在の福岡県西北部）の守護職に任じられるなど、勢力拡大に努めました。また、大内氏として初めて明（現在の中国）との勘合貿易に参加したり、琉球王国（現在の沖縄県）と交流したりするなど、異国との関係構築にも力を注いでいます。伊予国（現在の愛媛県）への出兵中に現地で病死しました。山口市小鯖地域の關雲寺（現泰雲寺）が菩提寺です。

◎教弘の隠居と築山（館）

教弘には一時的に隠居した期間がありました。長祿元年（一四五七）頃に幼い息子亀童丸（後の大内政弘）に守護職を譲り、寛正4年（一四六三）頃に守護職に復帰しています。隠居の理由は、教弘と幕府の関係が悪化したためと考えられています。この隠居期間中に教弘が拠点としたのが、築山（館）であったとされています（今までは大内氏の別邸といわれてきたが、調査研究が進んだ結果、そう理解されるようになった）。現在でも築山

跡の西北隅には築地（土塁）が残っています。

◎築山大明神

教弘の没後、跡を継いだ大内政弘は父親を神（築山霊神）として祀ることにします。その祭祀の場所が築山の地でした。政弘は朝廷に申請し、長享元年（一四八七）に後土御門天皇から神格化された教弘に対して「築山大明神」の神号が勅許されました。大内氏の滅亡後も築山大明神の祭祀は続けられました。しかし、江戸時代に入っ



築山（館）の築地

て、寛文6年（一六六六）に秋藩主・毛利綱広が興隆寺（山口市大内地域）境内の山王社に築山の土地を与えたことで、祭祀の場所としての役割を終えたと考えられています。

◎築山のその後

江戸時代の築山跡の状態は、不明な部分もありますが、途中まで焼け残った鳥居があったという話があります（『大内氏実録』）。幕末明治期になると、築山跡の様相も大きく変わってきます。元治元年（一八六四）に祇園社（現八坂神社）が鴻ノ峰の麓から移転、明治3年（一八七〇）に宝現霊社（現築山神社）も後河原（片岡）から移転してきました。さらに、山口の洋食料理の草分けとしても知られる料亭の菜香亭や現在の河村写真館の建物なども築山跡に建てられました。

◎発掘調査

築山跡は昭和34年（一九五九）に「史跡大内氏遺跡」の一つとして「（大内氏）館跡」などとともに国の史跡に指定されました。平成12・14年度にその東南部分（菜香亭跡地及びその北側隣接地）が山口市の所有となり、平成17・27年度にかけて発掘調査を行いました。その結果、幅3メートルを超える

堀や掘立柱建物の跡などが見つかり、教弘が隠居する場所として整備され、短期間使用されたことがわかってきました。

◎おわりに

今秋、市では「ぐるり！大内文化ゾーン 築山跡史跡公園オープン記念事業」を実施します。この機会に、大内氏のもう一つの館である「築山跡」をぜひ訪れてみてください。記念事業の一環として、大内氏の歴代当主らの可愛いイラストを描いたコミュニケーションバス「大内のお殿様号」を、瑠璃光寺五重塔や八坂神社前を通る「大内ルート」を中心に運行していますので、ぜひ御乗車ください。



「築山」まとめ

・「築山跡」 大内氏館の北側にあり隠居中の大内教弘が拠点とした館の跡地。
・「築山大明神」 大内教弘の没後、天皇から勅許された教弘の神としての名前。
・「築山神社」 大内義隆を主祭神とする神社。元の名前を宝現霊社といい、明治3年に築山跡の地に移転してきた。

築山神社の祭神は曾祖父教弘ではなく私です！



関連イベント情報

①お殿様シールラリーキャンペーン

期間／9月9日（金）～12月28日（水）
立ち寄りポイント／山口市菜香亭、山口ふるさと伝承総合センター、大路ロビー、C・S赤れんが

①問／文化交流課

☎083-934-4155

②築山跡史跡公園開園記念イベント

日時／10月10日（月・祝）14時～16時
会場／築山跡公園
※雨天時は山口県教育会館ホール

③築山跡史跡公園開園記念シンポジウム

「築山跡と大内教弘」
居館から祭祀の場へ」
日時／11月27日（日）13時～16時30分
（事前申込制）
会場／山口県教育会館ホール

④築山跡史跡公園オープン記念特別企画展

「探求！築山跡」

「大内氏のもうひとつの居館」
会期／10月6日（木）～12月11日（日）
会場／山口市歴史民俗資料館
開催時間／9時～17時
（入館は16時30分まで）

休館日／月曜日（祝日の場合は翌平日）
観覧料／19歳以上70歳未満110円
②③④問／文化財保護課

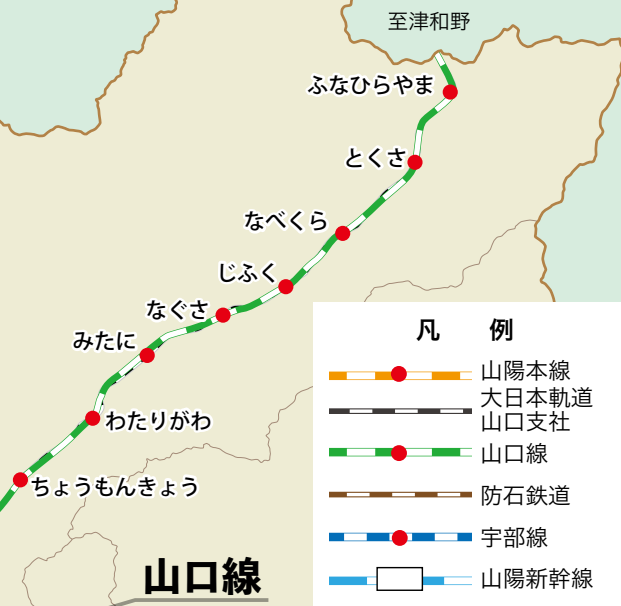
☎083-920-4111

「ぐるり！大内文化ゾーン 築山跡史跡公園オープン記念事業」の詳細はこちらで！



— 鉄道開業 150 周年 —

山口市域 鉄道路線図



山口線

防石鉄道（廃線）



○山口鉄道事始め

山口市域における鉄道のはじまりは、明治33年12月3日に山陽本線（当時は私鉄の山陽鉄道株式会社）の三田尻〜厚狭間が開業したことです。この時、小郡駅（現新山口駅）・嘉川駅・阿知須駅（現本由良駅）の三駅も開業しています。小郡駅が設置さ

幕末維新期に父親の井上勝行が吉敷郡小鯖村（現山口市小鯖地域）に移り住んでいた時期があります。

井上自身は萩の生まれですが、明治4年に鉄道寮が設置されるとそのトップの鉄道頭に任じられました。鉄道開業を成し遂げた井上は、明治26年に鉄道庁長官を退官した後も生涯全国に鉄道網を広げるべく尽力しました。



井上 勝（国立国会図書館「近代日本人の肖像」より）
天保14年（1843）8月1日～明治43年（1910）8月2日

今年（2023年）は日本で鉄道（新橋〜横浜間）が開業してから150周年になります。また、山口線の徳佐〜津和野間が開業し、現在の山口市域を通る同線の路線が全て通ってから100周年でもあります。この機会に山口市域における鉄道の歴史を振り返ります。

○鉄道開業

我が国に初めて鉄道が開業したのは、新橋〜横浜間で明治5年（二八七二）9月12日のことです。明治新政府は、明治2年に東京〜京都間などに鉄道を建設することを決定して、イギリスの支援を受けて明治3年から鉄道建設が開始されていました。

○井上勝

鉄道の歴史を語る上で欠くことのできない人物が、「鉄道の父」井上勝です。西洋の進んだ制度・技術を学ぶため、幕末の文久3年（二八六三）に長州藩からイギリスに留学した五人組「長州ファイブ」の一人として知られています。井上は留学先で、鉱山や鉄道などに関する技術を学びました。帰国後の明治2年に新政府に出仕し、明



明治・大正頃の嘉川駅（絵葉書・個人蔵）

れた小郡村は、元々山陽道沿いの宿場町として栄えていましたが、交通の要衝としてさらに発展していくこととなります（翌年町制移行）。

○山口線の建設

鉄道が山口町を通らないことによる経済的な損失などを危惧した有志らの尽力により、山口町を通る大日本軌道山口支社の軽便鉄道が建設され、明治41年10月に湯田新町間が開業しました。軽便鉄道は延伸を続け、明治43年に小郡山口市域における鉄道開業年表

山口市域における鉄道開業年表

開業区間	開業日
山陽本線	
三田尻※1～厚狭	明治33年12月3日
旧大日本軌道山口支社（大正2年廃止）	
湯田～新町	明治41年10月15日
湯田～山口※2	明治41年12月10日
新町～小郡	明治42年2月21日
亀山～山口	明治43年7月20日
小郡～小郡（山陽本線）	明治43年11月16日
山口線	
小郡※3～山口	大正2年2月20日
山口～篠目	大正6年7月1日
篠目～三谷	大正7年4月28日
三谷～徳佐	大正7年11月3日
徳佐～津和野	大正11年8月5日
旧防石鉄道（昭和39年廃止）	
上和字～堀	大正9年9月23日
宇部線	
床波～本阿知須※4	大正13年8月17日
本阿知須～小郡	大正14年3月26日
山陽新幹線	
岡山～博多	昭和50年3月10日

※1 防府、※2 亀山、※3 新山口、※4 阿知須にそれぞれ改称

から山口までを結ぶ路線が完成しました。

しかし、その後、国有鉄道として山陰と山口を結ぶ山口線の建設が計画されます。利用者などが重なる軽便鉄道は、大正2年（二九一三）2月の山口線の開業とともに営業を停止し、わずか四年数カ月でその役割を終えました。新たに山口の人・物の流れを担うこととなった山口線は、まず小郡山口間が開業し、最終的に大正12年4月に島根県の石見益田駅（現益田駅）まで延伸して完成しました。

○鉄道網の拡大

明治末頃から山口県内各地で鉄道が建設され始めました。その中で、大正3年1月に現在の宇部線に当たる私鉄の宇部軽便鉄道株式会社（後に宇部鉄道株式会社）が、宇部～宇部新川間で開業しています。その後の延伸で、大正14年3月に宇部鉄道の本阿知須～小郡間が開業したことから、交通結節点（繋ぎ目）としての小郡の重要性がさらに高まりました。

また、佐波郡方面では、防

大日本軌道山口支社（廃線）



○新幹線の登場

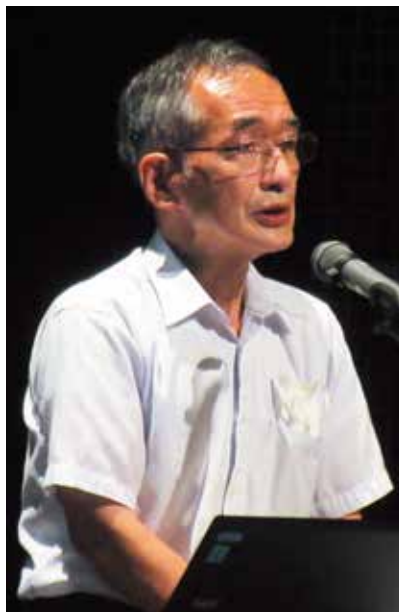
戦後、新幹線が開発されると、昭和50年（一九七五）3月に山陽新幹線の岡山～博多間が開業し、新幹線が小郡に停車するようになりました。さらに、平成15年（二〇〇三）10月に小郡駅は新山口駅と改称、のぞみ号も停車するようになりました。こうして、現在の山口市域における鉄道網が出来上がりました。



山口線開通記念絵葉書 山口停車場（部分・個人蔵）

宇部線

令和4年6月12日、山口南総合センターホールにおいて、大内氏重臣・陶晴賢生誕500年記念「陶晴賢と厳島の戦い」と題して、秋山伸隆先生（県立広島大学名誉教授）に講演いただきました。



秋山伸隆先生
（県立広島大学名誉教授）

けた。そして、天文20年、晴賢は山口へ進撃し、義隆は自害した。元就は陶氏と協調関係を築くことで、芸国衆への指揮権を事実上確保した。

はじめに

天文24年（一五五五）10月、毛利元就が陶晴賢を破った厳島の戦いは、元就が陶二万の大軍を厳島におびき寄せ、わずかに四千の軍で奇襲を仕掛け勝利したと語られている。今日は、陶晴賢の立場から厳島の戦いの実像を見直してみたい。

1 陶晴賢と毛利元就

大内氏一族で重臣の陶晴賢は、主君の大内義隆とその側近・相良武任との対立を深め、義隆を引退させるクーデターを計画した。芸国の毛利元就も早くから計画に関与していたらしく、陶氏と芸国衆を仲介し、その協力を取り付

2 陶晴賢の戦略

天文22年、晴賢が石見国の吉見氏への攻撃を本格化させ、元就に石見出陣を求めた。毛利側では対応をめぐり協議が続いた。元就は棚守房顕（厳島神社神官）から、陶が本心では毛利を討とうとしていると知らされていたが、挙兵に失敗すれば陶氏と出雲国の尼子氏に挟み撃ちされる危険性があり、当面陶氏との協調関係を維持させるしかないと考えていた。晴賢は態度を表明しない毛利氏にじれ、翌23年、芸国衆の平賀氏に使者を送り、毛利氏から離反させようとした。しかし、使者は捕縛され、毛利氏に差し出される。元就は陶

氏との断交を決意、軍を進め、廿日市・宮島まで占領した。

これに対し、晴賢は吉見氏と講和を結び山口へ戻る。「房顕覚書」によれば、天文24年5～6月頃、晴賢は「山里黒滝」（※1）に在陣している。山間部を経由して防芸国境を越えるルートで進軍したと考えられる。毛利方の抵抗で「山里要害」（中山城跡廿日市市）を落とせなかったため、晴賢は山里に軍勢を残したまま、厳島渡航作戦に転じた。

3 陶晴賢の誤算

兵力の分散のほか、晴賢の誤算として、大内氏家中でも分裂が起こり、内藤氏・杉氏などの大内氏重臣が厳島へ渡海しなかったこと、家臣・宮川房頼の敗死や元就の手の内を知る家臣・江良房栄を晴賢が殺害してしまったことなども挙げられる。

厳島で戦った毛利軍は、史料をもとに推計すると四千をはるかに超えていた。一方、陶方の厳島で討死した者は陶氏の譜代家臣と周防国東部の弘中隆兼らに限られており、陶軍は一万余と考えられる。両軍の戦力にそれほど大きな違いはなかったと考えられる。

弘中隆兼が妻に宛てた書状に、隆兼は厳島渡海に反対だが、神領衆（※2）や警固衆（※3）が渡海

※1「山里」は安芸国佐々郡の山間部を指す地域呼称
※2 厳島神社神主家の家臣 ※3 水軍

4 警固衆の動向

勝敗を分けた要素の一つに、警固衆の動向も挙げられる。厳島合戦の直前、陶方の警固船が不足、毛利方の援軍を乗せた船の上陸を阻止できなかった。村上水軍のうち、来島村上氏が毛利方で参戦したことは疑いがなく、また、能島村上氏は合戦の前後、陶方に属していたが、合戦に直接参戦しなかったと考えられる。

警固衆の戦力を比較して、両軍の動員できる規模に大きな差があったとは考えられない。そのため、直接参戦した警固衆の戦力の差という面でも、毛利方の勝利は確実であった。



講演会の様子

兼重暗香 生誕150年



兼重暗香（『大日本人物名鑑』）
兼重暗香（『大日本人物名鑑』）
兼重暗香（『大日本人物名鑑』）

今年は戦前に活躍した山口市出身の画家・兼重暗香（ムメ・梅子）の生誕150年です。暗香は明治5年（一八七二）3月、山口県吉敷郡矢原村（現山口市大蔵地域）で生まれました。幼少期の事故で両足が不自由になりましたが、明治16年に父親の仕事の都合で東京に移住すると女学校を卒業し、画家としての自立を目指します。絵画について

は、まず、洋画を河北道介や本多錦吉郎から学び、その後、日本画に転じて女流画家の野口小嶺に学んでいます。さらに、高島北海（※）・松林桂月らからも教えを受けました。南画の流れをくんだ画風で、繊細な山水画・花鳥画から緻密な考証に基づいた歴史画・人物画まで、幅広く取り組みました。日本美術協会的美術展で度々受賞・入選し、同協会の委員を務めるなど、画家として成功、東京を拠点に広く活躍しました。第二次世界大戦中に山口に疎開し、昭和21年（一九四六）11月2日に亡くなりました。墓は山口市大蔵地域の洞春寺にあります。



兼重暗香筆 木蓮に孔雀図（個人蔵）

※来年国の名勝指定 100 周年を迎える「長門峡」の命名者

「山口ヒストリア」からのお知らせ

「山口ヒストリア」の
配布方法が変わります！

今号から自治会等における「山口ヒストリア」の配布方法を、全戸配布から回覧に変更しました。これにあわせて、市のホームページ（組織でさがす↓交流創造部・文化交流課↓お知らせ）に「山口ヒストリア」を掲載することとしました。ぜひ御覧ください。従来通り地域交流センター等にも置いてありますので、必要な方はそちらを御利用ください。

次回の山口ヒストリア講演会について

今回の「山口ヒストリア講演会7」は、年明けの開催を予定しております。詳細につきましては、後日市報等でお知らせします。

今しばらくお待ちください！



「大内氏館」「高嶺城」御城印 販売中！

特集①でも紹介しました築山跡史跡公園の開園を記念し、続日本100名城に選定されている「大内氏館」と「高嶺城」の御城印（築山跡史跡公園開園記念特別バージョン）を、期間限定で販売しています。

期 間／8月1日（月）

～12月28日（水）

販売場所／山口市歴史民俗資料館・

大路ロビー

価 格／各220円

問い合わせ／文化財保護課

☎083-920-4111



「大内氏館」は大内義興のときに造られたとされる池泉庭園、「高嶺城」は城跡の石垣をデザインしています。題字の揮毫は山口市教育長藤本孝治によるものです。

山口市旧宮野村役場文書の研究

近代日本の変革期における地域社会



B 5 判上製本 342 ページ
定価 1,830 円 (税込)

山口市史「史料編」編さん事業の調査で、旧村役場文書の中で質量ともに最も充実していると判断された「旧宮野村役場文書」を対象とした調査研究書です。ぜひ御覧ください!!

西国一の御屋形様

大内氏がわかる本 興亡編



A 5 判 カラー 120 ページ
定価 650 円 (税込)

御好評いただいている「大内氏がわかる本」の第二弾が出来ました!!
戦を中心とした歴代当主の活躍、西日本の各地に残る足跡、有力な家臣団、西国一の御屋形様「大内氏」の魅力をこの一冊にギュッと凝縮しました。ぜひ御覧ください!!

販売所：文栄堂（本店・山口大学前店・ゆめタウン店・サンパークあじす店）、宮脇書店湯田ブックセンター、長州苑 本館、文化交流課 歴史文化のまちづくり推進室（山口総合支所）・同分室（小郡総合支所）、山口市歴史民俗資料館、鑄銭司郷土館、小郡文化資料館、山口ふるさと伝承総合センター、大路口ビー、山口情報芸術センター、湯田温泉観光回遊拠点施設「狐の足あと」、山口市菜香亭、新山口駅観光交流センターなど

問い合わせ 山口市交流創造部文化交流課
〒753-8650 山口市亀山町2番1号
☎ 083(934)4155 FAX 083(934)2670
E-mail: bunka@city.yamaguchi.lg.jp

『山口市史』ほか書籍販売のご案内

★既刊

◎『山口市史 史料編』全8巻

「大内文化」「考古・古代」「中世」「近世1」「近世2」「近代」「現代」「民俗・金石文」

(各巻七、三三〇円)

◎『山口市史』(昭和57年刊、平成9年追補)

(四、四〇〇円)

◎山口市歴史叢書一

『山口市の金石文―阿東・徳地・小郡・秋穂・阿知須編―』

(二、四三〇円)

◎『大内氏受発給文書目録』

※PDFファイルにて公開中
○目録ご利用方法/大内文化まちづくりホームページ <https://ouchi-culture.com> (著作 山口市) 上の、「大内氏・大内文化の歴史」↓「大内氏関連書籍」↓大内氏受発給文書目録にアクセス、PDFファイルを開いてください。ダウンロードも可能です。

です。県立山口図書館、市立図書館には図書として配架されています。

◎『西国一の御屋形様

大内氏がわかる本入門編』

(六五〇円)



第1弾も好評販売中!

◎『山口市 幕末維新史跡ガイドブック』※残部僅少(七三三円)
◎『山口市 幕末維新人物ガイドブック』(五〇九円)

●販売場所/文化交流課(山口総合支所3階)、歴史文化のまちづくり推進室分室(小郡総合支所3階)等
※総合支所の地域振興課(山口・小郡総合支所を除く)での受け取りも可能です。



編集後記

今回は築山跡、鉄道開業150周年、兼重暗香などを取り上げました。人々の暮らしをより良くするため、先人が苦勞して築き上げた歴史に思いをはせながら、身近な地元の鉄道路線を利用してみませんか。



編集・発行 山口市交流創造部文化交流課
歴史文化のまちづくり推進室(分室)

☎ 754-8511 山口市小郡下郷609番地1(小郡総合支所3階)

☎ 083(973)2438 E-mail: s-hensan@city.yamaguchi.lg.jp

印刷会社 株式会社マルニ

※本紙記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。 再生紙を使用しています。

ガイドブックや「大内氏がわかる本」は市内の一部書店等での取り扱いもあります。詳細は市のホームページを御覧ください!